

## 令和3年度 第1回高島市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和4年2月1日(火)  
開会：午前10時00分 閉会：午前11時33分
2. 場 所 高島市役所 新館2階 教育委員会室
3. 出席者
- |            |          |        |
|------------|----------|--------|
| (構成員)      | 高島市長     | 福井 正明  |
|            | 高島市教育委員会 |        |
|            | 教育長      | 上原 重治  |
|            | 教育長職務代理者 | 小多 偕裕  |
|            | 教育委員     | 三矢 艶子  |
|            | 教育委員     | 田邊 栄美子 |
| (市長事務局)    |          |        |
|            | 政策部長     | 西川 彰   |
| (教育委員会事務局) |          |        |
|            | 教育総務部長   | 日置 武司  |
|            | 教育指導部長   | 川島 浩之  |
|            | 朽木東小学校長  | 地村 俊彦  |
|            | 教育総務部次長  | 饗庭 眞二  |
|            | 教育総務部次長  | 山本 純子  |
|            | 学校教育課長   | 饗庭 一弥  |
|            | 学事施設課長   | 山本 一郎  |
|            | 学校教育課参事  | 唐崎 展之  |
|            | 教育総務課参事  | 上原 真哉  |
|            | 教育総務課主査  | 池山 大喜  |
4. 議 題 ICTを活用した教育の推進について
- (1) ICTを活用した授業実践 【資料1】
  - (2) ICTを活用した学び方改革 【資料2】

## 5. 会議の経過

饗庭教育総務部次長	<p>皆さんおはようございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから、令和3年度第1回高島市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして、福井市長がご挨拶申し上げます。</p>
福井市長	<p>本日は今も司会の方からありましたように、本年度、第1回目となります総合教育会議を開催させていただきましたところ、委員各位にはなにかとお忙しいところご出席賜りありがとうございます。また、各委員におかれましては、高島市の学校教育あるいは社会教育の分野、教育分野各般にあたりまして、日頃から大変ご指導ご支援いただき、改めて感謝を申し上げます。</p> <p>さて、新型コロナウイルス感染症の対策について、行政だけではなく、民間企業あるいは市民の皆様の日々も暮らしも制約を受けながら、そうした暮らしが3年目を迎えるようとしています。今年に入り、とりわけ感染力がかつてないほど強力な第6波のオミクロン株の蔓延によりまして、全国的に新規感染者数が連日、過去最高を記録するような感染状況でもあります。市内では毎日のように防災行政無線を使いながら、その日その日の感染状況を報告し、市民の皆さんに引き続き感染防止に向けた取組の要請をさせていただいているところでございます。</p> <p>状況を申し上げますと、市内では昨年12月までの実質2カ年で299名という多くの方が感染されました。しかし、今年1月第1週目あたりから昨日まで、約260名の方が新規で感染が確認されたという、極めて異常な事態と言わざるをえない状況でもあります。連日、私に状況や内容などの報告が上がってきますが、年齢層を見ますと、0歳児から90歳代まで広い年齢層の方に感染が確認されてございます。特に、報告の中で受け止めなければならないのは、ほとんどが感染経路不明であるということであり、お一人が何らかの形で感染が確認されますと、ご家族の方が濃厚接触者となり、濃厚接触者の方は当然PCR検査を受けていただきますが、ほぼ全員に感染が確認されるという状況でもあります。コロナの最初の頃は濃厚接触者でもそれほど家族の方全員が感染されることはありませんでしたが、デルタ株になりましてからは、少し家族の方でも濃厚接触者で感染が確認されるケースが相次いできました。ただ、今回のオミクロン株ではご家庭の方々もほぼ感染が確認され、非常に感染力が強いということが顕著でございます。特に、子どもたちの感染も大きくございまして、保育園あるいは小学校、中学校の子どもたちが発熱や体調不良で念のため検査をすると陽性が確認され、</p>

<p>福井市長</p>	<p>そしてご家族の方も濃厚接触者となり、ほぼ皆さん感染というのがほとんどのケースであります。こうした影響により、市内小中学校19校のうち、学級閉鎖あるいは臨時休業の判断をさせていただいたのは10校あります。本日の学級閉鎖は3校ですが、引き続きそうした状況でありますし、子どもたちが通う保育園についても同様の感染確認がされまして、2クラスで感染確認されますと休園、1クラスの場合は学級閉鎖という対応を複数の園でも実施をさせていただいているところであります。引き続いてそうした対応を講じていかなければならないところであります。先の見通しが立たない状況であります。一説では2月の中旬あたりが一つの節目というふうに言われていますし、まん延防止の措置期間も13日が東京中心、20日がその他の府県となっておりますので、そのあたり一定、今後の対応について判断が下されるタイミングだと思っておりますし、引き続き感染対策に取り組んで行かなければいけないと思っております。</p> <p>ワクチン3回目の接種でありますけれども、市では65歳以上の方については7ヶ月を経過された方について接種券をお届けをさせていただいているところであります。</p> <p>また、本日から集団接種の予約の受付をスタートさせていただいていますし、引き続き3回目の接種を医師会と連携しながらしっかりと遺漏の無いように対応をして参る所存であります。</p> <p>こうした状況の中ではありますが、すでに臨時休業あるいは学級閉鎖を判断した学校の子どもたちは、本日のテーマでありますICT機器であるタブレット端末を持ち帰ってリモートによる教育を進めさせていただいております。</p> <p>国のGIGAスクール構想で全国の小中学校にタブレット端末を一斉導入してICT教育を推進していくということで、国の急な判断ではありましたが、市としても足並みを揃えていこうと令和2年度から実施をさせていただいております。コロナ禍の中で実際に子どもたちがタブレット端末を持ち帰り、自宅でリモート学習を行うといったICT教育に2年間取り組んできた現状と、課題、あるいはICTを用いた教育のあり方につきまして、忌憚のないご意見を賜われればと考えているところであります。</p> <p>本日の総合教育会議が有意義なものとなりますよう、委員各位のご協力をお願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。</p>
<p>饗庭教育総務部次長</p>	<p>本日の出席者は市長、教育委員、教育長のほか、お手元に配付の座席表のとおりでございます。ここからは市長の進行により会議を進めていただきます。福井市長よろしく</p>

饗庭教育総務部次長	お願いいたします。
福井市長	<p>それでは、次第に基づきまして、ICTを活用した教育の推進について、授業の実践と学び方改革の二つについてご報告をいただき、それぞれについてご意見を賜われればと考えております。「ICTを活用した授業実践について」を議題とさせていただきます。朽木東小学校からの授業実践について説明をお願いします。</p>
地村朽木東小学校長	【「ICTを活用した授業実践」説明】
唐崎学校教育課参事	【「ICTを活用した学び方改革」説明】
福井市長	<p>朽木東小学校と学校教育課からICTを活用した教育の推進について、現場の状況あるいは課題も含めた現状について説明をいただきました。感想などをお聞かせいただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
田邊委員	<p>私は先日、朽木東小学校の教育現場を見学させていただきましたが、ICTの教育への導入というのはこれまでの学校の歴史の中でも大変大きな変革だと感じています。</p> <p>これまでは文字で理解できず、自分からは分からないことを発言できなかった子どもがいましたが、ICTを使うことで質問などをしやすくなります。先生たちも分かっていた子どもたちを置いてきぼりにするのではなく、どこが分からない、理解できていないのかを把握できるようになり、個々の子どもたちに必要な教材や、こういったアドバイスが必要になるのかを把握することで、指導のレベルがワンステップアップするのではないかと思います。すでに理解が深まっている子どもたちはどういった学習をしているか、どこまでのレベルまで理解を深めさせるかの準備をすることへのヒントになるのではないかと思います。これからの授業は子どもたちを中心に個性を伸ばしていく内容になると思います。引っ込み思案で学校に行けない子どもにもみんなと一緒に一つのことを共有することで、学校へ行けるようになり、授業で友達とのやり取りに参加することで友達との会話が広がり、いろんな面でICTの授業の効果が出てくるのではないかと思います。</p> <p>一方でこれまで、これから、いま現場におられる方と3</p>

田邊委員	つのタイプの先生がおられると思います。過去と未来の教育を両立させる必要があり、未来の教育に対応する負担などを考えると、しっかりとフォローする体制づくりがこれからの課題になるのかと思います。
福井市長	<p>子どもたちの気づきを教師がリアルタイムで把握でき、学習内容を深く向上させるメリットについてまとめてくださいました。</p> <p>一方、教師力の向上に期待される部分が多いご意見だったと思います。子どもたちの探究心、創造性などはこれまでの対面学習では得られにくく、こうした力につながるようなICT教育の提供や開発をしていかなければならないと思います。</p>
唐崎学校教育課参事	<p>朽木東小学校の4年生の実践であったように、子どもたちが主体的に、何を探究し、どのように調べ、まとめるかを自由に選択し、子どもたちそれぞれが個別最適に取り組んだ事例を紹介しました。事例紹介をした国語科の単元にこれから求められる教育が凝縮されているという印象を持っており、国語科だけではなく、ほかの教科でもこうした取り組みを行うことが大切だと考えています。</p>
福井市長	<p>資料の中で、体制面の課題として「研修の機会と時間の確保」が挙がっていましたが、この課題を解消するためにはどういった対応を行っていますか。</p>
唐崎学校教育課参事	<p>研修の機会については、リモートでの研修を増やしたことで先生方が参加しやすくなりました。集合研修を実施していた時は、各校一人程度の参加でしたが、リモートにすることで複数人が研修に参加できるようになり今年は大幅に参加人数が増えました。</p> <p>教職員間でスキルの格差があることは大きな課題と捉えていることから、研修は初級者用、中級者用と種類を設けニーズに合った研修に参加してもらう体制を作りました。</p> <p>また、タブレット端末を活用して授業研究会の意見交流を行うことにより、研究会の内容が深まると同時にICTスキルも高まるといった相乗効果が生まれています。このように、日常的に学びや仕事の道具としてタブレット端末を使っていく中で、スキルが高まっていくものと考えています。</p>
地村朽木東小学校長	<p>ICTを活用した授業力の向上が1番の課題だと考えています。ICTを使い子どもたちが発表する、考えを出し合うことを教師が的確に取り上げ、全体に返していくこと</p>

地村朽木東小学校長	で新たな問いかけや発見が出てくることなど、ICTを使うことで出てくる新たな可能性について深掘りしていけたらと思っています。
三矢委員	<p>ICTの活用については過去に総合教育会議で取り上げられましたが、当時、タブレット端末はあくまで指導者のグッズやツールであると紹介され、子どもたちの活動をカメラ撮影し、共有することで授業の幅が広がりますよという内容でした。そこから高島市の教育環境整備が進み、研究されてきたことが今日につながっていると思っています。先日、学校訪問をさせていただいたときにこれが令和の学校かと大変驚きました。子どもたちがタブレット端末を便利な道具として使いこなし、みんなで学ぶ楽しさを味わっている様子を見て大変感動しました。昨年、1人1台のタブレット端末の導入が完了しましたが、スムーズに導入が完了したのは市の理解もそうですが、先生たちの努力が大きかったものだと考えています。子どもたちは画面でのつながり合いや、学習ができることの楽しさを味わえることができる環境になったと思います。今後、子どもたち、先生、保護者、地域の声など、様々な意見を取り入れながら、学校外での取組が充実していくことを期待します。</p>
福井市長	<p>教育現場だけにとどめずに地域にこうしたリモート学習の過程を紹介することで、より深まっていくのではないかと思います。学校現場ではどのように捉えていますか。</p>
地村朽木東小学校長	<p>ICTの活用については、地域の方にも今後さらに発信していかなければならないと思っています。家庭での活用については、保護者にご理解いただきながら進めておりますが、地域への発信については学校運営協議会などで議論を深めて、取り組んでいきたいと思っています。</p>
小多委員	<p>学校すべてにタブレット端末が導入され大変ありがたいです。県下ではまだまだ全員に配備できていないところもあると聞いていますし、高島市については大変恵まれている環境なのかなと思っています。</p> <p>学校では、小学1年生がタブレット端末の操作について共同で学習をしていると思いますが、リモートや自宅学習の際には一人でタブレット端末の操作をしなくてはいけなくなり、心細く一人ではできない子も一定いるのではないかなと思います。ICTに苦手意識を持たないか心配しています。自分から発表できなかった子どもがタブレット端末を使うことで発表できるようになったことは良い面と</p>

小多委員	<p>して理解をしています。タブレット端末をはじめとしたICTへの苦手意識対策について、しっかりとした準備が必要なのかなと思います。</p>
福井市長	<p>特に、低学年の子どもがタブレット端末を家庭に持ち帰ってリモート学習についていけるのかは心配な部分です。みんなが同じようにタブレット端末を操作できるわけではなく、得意な子、不得意な子がいるわけです。子どもは多様な思考を持ち合わせていますので、こうしたついていけない子どもが苦手意識を持ってしまったら将来にわたって情報化に乗り切れないという課題があるのかなと思います。</p>
川島教育指導部長	<p>今年度の9月1日から3日間は、すべての学校で全学年を対象にリモート学習を行いました。当然、ICTについて得意、不得意がありますので学校の方で不安解消ができるように使い方については事前に指導をさせていただきました。しかし、十分な指導をしても操作が難しいというようなケースもありますので、電話などで相談に対して支援をしていくことや、授業の中でもそうした支援をできるように配慮をしているところであります。</p> <p>すべての子どもたちにスキルが身に付いて、意欲、関心を持って学習に取り組み、学力向上につながる大きな目標ですので、それぞれのレベルアップにつながる支援に、特に配慮しながら進めていきたいと思っております。</p>
福井市長	<p>教職員の皆さんでも生理的に情報分野が苦手だと感じている方もおられると思います。そういった現場の教職員の皆さんの研修の機会や専門的な方々から個別指導を受ける機会もあるとは思いますが、教職員で不得意とされている方への指導力の向上については、自発的に研修を受けてもらう、そして独学でスキルアップをしてもらうような状況なのではないでしょうか。</p>
饗庭学校教育課長	<p>教育委員会としてはICTの研修については、タブレット端末を導入する際に行う導入研修から各教職員のレベルに応じた研修を今年は、特に配慮して行いました。レベルの高い教職員は特別に、どのように活用していくかなどに比重を置いた研修も組み立てており、専門家や先進的な取り組みをされている講師等にもご指導をいただきながら研修を実施しているところです。加えて、学校では先生方が独自に子どもたちの学習状況を写真や動画などで記録を取り、研究会の時に持ち寄って先生同士で子どもたちの学習状況をシェアし、そうしたOJTを行いながらスキルアップ</p>

饗庭学校教育課長	<p>プに取り組んでいるところです。</p>
小多委員	<p>教職員アンケートの「ICTを活用することで学力向上につながる」という項目で、あまりそう思わないの方が2割、また、「知識の定着が図れる」の部分で、そう思わないの方が3割いらっしゃることを、どのように捉えておられるのでしょうか。</p>
田邊委員	<p>先生のICTスキルが上がることで、子どもたちの学力向上につながるなどの関係性はないのでしょうか。</p>
福井市長	<p>GIGAスクール構想の狙いは子どもたちの個に応じた教育をしなければならないまさに公教育の現場で、そこを担っていただいている教師の方ご自身が「学力が上がる」「知識の定着を図ることができる」の設問について「とてもそう思う」の数字が極めて低いのはひとつ現場の大きな課題だと思います。現場の教師力あるいは教育力をいかに高めていくか。それは教師の皆さんがそれぞれ気概を持ってやっていただかなければならないと思います。</p>
上原教育長	<p>タブレット端末の活用により様々な方法ができるようになり、学校の授業風景が大きく変わりました。そして子どもたちの目の輝きが変わったというのは事実だと思います。</p> <p>教職員アンケートで「楽しい授業を行うことができる」「児童生徒の興味関心が上がる」のアンケート結果がこれを示しているのかなと思います。「個別最適な学び」あるいは「協働的な学び」は方法論です。教師にとって授業の方法が変わってきているというのも実感しています。</p> <p>学力というのは何なのかですが、私の考えは「これからの社会を生きていく中で探究的に学ぶ」ということが必要になってくると思っています。つまり、データを集め、仮説を立て、新しい考え方を導き出すという探究的な学びが必要になってくると思っています。</p> <p>昔は「1+1は」という答えを出していましたが、現代はそれだけでは生きていけないということで探究的学びにかかる学力がこれから必要なんだと思います。教育は人なりですので、教師が手段を変化させながらどのようにデジタルを効果的に使っていくのかという部分にまだ到達できていない。このICTをどのような場面でどのように使うのかということがまだまだ探究できていない。そうした探究できる研修を行い、学力ということについて、理解し、学力が上がる方策にICTをつないでいただけるような教職員を増やしていきたい、あるいは全体のレベルを上げて</p>



上原教育長	いきたいという思いを持っており、感じているところです。
三矢委員	<p>これまでの私たちが知っている知識理解だけを学力というのではなく、人とつながって答えを見つけていくような学びあるいは活動を行っていただき、大きな学力を身に付けることを目指しているというお話でしたので、そのように進めていただければと思います。子どもたちが怪我や病気で欠席しても学習の継続を保障していくという大きな働きがあると思います。不登校や教室外で学ぶ子どもたちにとっても、子どもたちの状況に合わせ、活用していきながら社会的な自立と交流を深められる子どもを育てていけると良いと思います。</p> <p>また、一斉授業の中で学びづらい子どもたちにとって、デイジー教科書等の導入により、デジタルの強みを生かし、誰も取り残すことなく一人ひとりが持つ力を伸ばすことができ、学びを保障していくことにつながると思います。</p> <p>今後は学校ごと必要とするアプリケーションなどを導入できる予算があると良いと思います。教育効果や費用対効果の課題もあると思いますが、バランスを取りながら予算をつけていかないといけないと思います。こうした部分からも教育の可能性を広げていく、また住みやすい、住み続けたい高島をつくる子どもを育てていただきたいと思います。</p>
福井市長	<p>教科書を用いた教育だけではなく生きる力を育てていく、大きな教育につなげていくことが大切だと思います。公教育には、人格形成を含めた生きる力を育む教育活動が求められていると思います。子どもたちの個々の探究心や広範囲に渡る想像力を伸ばすICT教育を促進していく必要があるのかなと思います。今後の課題や方向性については、子どもたちが取り残されることがないように、ICT教育に拒否反応を示す子どもが出ないように学校現場できめ細やかに接していただき、丁寧な対応が求められるところです。教職員の方々にはICT分野に長けている方、そうでない方が当然いらっしゃいますので、そうした現場の教師力の向上に努めるために各学校独自の創意工夫が必要ですし、教育委員会においても同様にそうした取り組みが必要だと思います。</p>
饗庭教育総務部次長	<p>本日は、ICTという幅広いテーマでご議論いただきありがとうございます。このICTの取組はスタートしたばかりでこれから課題がますます出てくるものと考えてお</p>

饗庭教育総務部次長

りますので、引き続き、この総合教育会議のテーマでも取り上げさせていただきたいと思っております。本日はありがとうございました。